

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 11月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100583
法人名	医療法人財団 百葉の会
事業所名	グループホーム 百葉二の宮
所在地 (電話番号)	富士宮市北町 14-5 (0544-25-7892)
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(平成21年07月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人/ 非常勤 2人/ 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	¥18,000
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100円

(4) 利用者の概要(平成21年〇月〇日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.8 歳	最低 82 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人挙げて取り組んでいる理念『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』を職員全ての目標とし、サービスの質の向上に取り組んでいる。富士宮市の街中にあり、地域に馴染んだホームになってきており、利用者及び家族からの信頼も厚く、またそれに応えるよう職員全員で取り組んでいる。常に、現在行っていることに疑問と課題を認識し、いかに利用者本位のサービスが提供できるかを職員が一丸となって取り組み、実践している。ホーム内は、居心地良いゆったりと過ごせる空間になっている。職員が明るく優しいため、利用者も安心して、生き生きと生活している様子が見受けられた。今後もこのような取り組みの継続を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は外部評価の意義をよく理解しており、前回の指摘事項の内、「現状に即した介護計画の見直し」・「重度化や終末期に向けた方針の共有」・「災害対策」は改善されており、「居心地よく過ごせる居室の配慮」については課題を残している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票作成においては、職員全員で取り組み、87項目中80項目について意欲的な「取り組んでいきたい内容」が記されていた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>この会議を地域密着型ホーム実現の大きな柱と位置づけ、家族・地域・行政の理解の下、2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議ではホームの現状や行事等を報告し、理解や参加要請を行っている。地域からの協力や参加依頼もあり、より良い関係作りに役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月担当職員から利用者一人ひとりの生活の様子や健康状態を報告し、また、3ヶ月に一度の新聞や家族会において、職員紹介や行事等も報告すると共に、電話や面会時には随時報告すると共にご意見を聞いている。苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記され、意見や要望は随時受け入れている。運営推進会議には家族の代表に必ず参加して貰い、頂いた意見等は職員に周知し、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民に親しまれ、災害時等にも協力体制を取れるよう、地域との関係を重要視している。自治会に加入し、多くの地域の行事に参加し、事業所の行事に招いたり、地域住民を対象に、認知症サポーター講座を行政の協力の下に開催した。浅間大社の大祭では、最後の日にホームの駐車場にダシが寄ってくれたり、幼稚園児の訪問や高校生のボランティアも来てくれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人グループの共通理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の下に、地域密着型に相応しい独自の理念を作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の下に作成された職員行動指針・湖山ケア行動指針があり、それを唱和して共有に努めている。また、ケア・接遇のセルフチェック表に基づき、職員一人ひとりの目標を決め、その反省をしながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、どんど焼き・三世代交流会等に参加し、地域との交流を積極的に進めている。浅間大社の大祭では、最後の日にホームの駐車場にダシが寄ってくれたり、幼稚園児の訪問や高校生のボランティアも来てくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己・外部評価の意義をよく理解しており、前回の指摘事項について積極的に改善に取り組んだ。今回の自己評価票作成においては、職員全員で取り組み、87項目中80項目について意欲的な「取り組んでいきたい内容」が記されていた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政の理解の下、2ヶ月に1回定期的に開催されている。会議ではホームの現状や行事等を報告し、理解や参加要請を行っている。地域からの協力や参加依頼もあり、より良い関係作りに役立っている。		

静岡県 グループホーム百葉二の宮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	普段の報告・連絡・相談が行われている。認知症サポーター講座では、市や地域支援センターのバックアップにより、資料作成や地域住民への周知が行われ、盛大に開催された。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、意見や要望は随時受け入れる態勢にある。運営推進会議には家族の代表に必ず参加して貰い、頂いたご意見等は職員に周知し、運営に反映させている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、意見や要望は随時受け入れる態勢にある。運営推進会議には家族の代表に必ず参加して貰い、頂いたご意見等は職員に周知し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が極力馴染みの関係の中で生活できるよう、職員の安定に最大限の努力をしている。家族に対しても「百葉二の宮新聞」で利用者と一緒に写真で担当職員を紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修システムがしっかりしており、各種研修・意見交換会等が行われている。また、未経験者には日常の業務を通じて知識や技術が習得できるよう支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市とのグループホーム連絡会や芝川町とのグループホーム部会等があり、合同運動会・新年会・実践発表会・事例検討会・新人研修会などに参加し、他事業所との交流を図り、地域全体でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者には家族と一緒にホームを見学してもらったり、併設のデイサービスの利用から始めてもらなどして、馴染みながらサービスが利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員が利用者との関わりや対話を大切に考え行動している。利用者が発する言葉にも、丁寧に耳を傾ける姿勢が訪問時に何度もみられた。利用者として自然に信頼し合い、支えあえる関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に細かなアセスメントを行ったり、家族からの聞き取りや日常生活の様子から利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。何よりも利用者本位を前提とした関わりをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者や家族から意見や要望を聞き、介護計画を作成している。内容は利用者の細かな支援方法等も記されている。また、より充実した生活に向けた内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しやモニタリングは定期的に行っている。急激な変化が生じた際(脳梗塞発症・骨折等での退院後)には、医師や家族の意見を聞き、職員全体で対応を検討し、プランの変更を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行かれないときの受診付き添いや24時間対応の湖山医院との連携もして、医療面の支援をしている。家族の宿泊対応や利用者の外出・外泊支援もしている。介護用ベツト等についても必要な方に情報を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が入所前のかかりつけ医院と契約しているが、医師からの情報入手・緊急時の連絡・必要時の受診付添い等を行い、適切な関係を築いている。また、市役所とも絶えず連絡しており、救急の場合は何時でも対応ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては職員が研修会等で勉強している。看取りの指針や同意書等用意されている。本人や家族が希望した場合には、職員はできるかぎり相談に応じており、家族や本人等が一番良い方法で対応しようとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者はそれぞれの生活履歴に対し、現在でも誇りを高くもっている。職員は利用者がこの高い誇りが失われる事がないように、特にトイレ・入浴等の誘導や声掛けに配慮している。個人情報は適切に取り扱い、写真掲載の限定等にも取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日常の介護において、利用者本位に一人ひとりのペースを大切にしており、できるだけ手を出さずに見守っている。本人の意向に沿い、その場の判断で、自由に過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には極力利用者の好みを反映し、職員と利用者は一緒に食事の準備・片付け等を行い、食事の時は、「いただきます」の声で恥始まる。誕生会等の行事食・月1回程の夕食も利用者の意向を尊重し、楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を踏まえながら、入浴については原則毎日入れるように配慮しており、半数以上毎日入浴している。嫌がる利用者には足浴や併設デイサービスの「ヒバの風呂」で気分転換を図ったり、仲良し二人での入浴の支援もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や特技を發揮してもらい、気晴らしができるよう支援している。また、広い駐車場を利用して、毎月のカレンダー表でハワイアンデー・流しソーメン・金魚すくい等、多彩なイベントが組まれており、季節に合わせた楽しみ方も提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩・買い物・夕食・季節毎の外出行事等で、事業所内に閉じこもることの無いよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は拘束であるという認識の下に、日中は鍵はかけていない。夜間については家族とも良く話し合い、諒解の下に事故防止の面からかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市役所、町内会等に協力してもらい、年に2回防災訓練をしており、消防署に報告や相談をしている。その他備蓄品一覧表を作成し、町内会への「貸し出し可」を明記している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの歯の状態や嚥下能力に応じて、バランスが良く食べやすい食事の提供を心がけているが、専門的な立場からのカロリー・バランスのチェックはされていない。食事の時、水分は出来るかぎりとするようにしており、それを記録している。	○	記録された実食簿からは問題ないと思われるが、一度法人グループに居られる管理栄養士に見てもらい、アドバイスを貰うと安心である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くて明るく、食堂や廊下には季節や行事の写真・絵画等があり、生活感)があり、居心地良い雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に自宅で使用していた物を持参していただくように声掛けをしている。箆笥等が部屋の収納部に納まっている。	○	何が本人にとって寛げる居室作りにつながるのか、もう一度家族や職員で打合せ、壁面の活用も含めて楽しく生活する方策を考えて頂きたい。